

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第3回武蔵村山市産業振興ビジョン策定懇談会
開 催 日 時	令和3年11月16日(火) 10時00分～11時30分
開 催 場 所	武蔵村山市役所 402会議室A
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：徳増委員、栗原委員、内野委員、小野寺委員、 石川委員、中澤委員、須崎委員、斉藤委員 欠席者：松原委員、田中委員 事務局：協働推進部長、同部産業観光課長、同部産業観光課商工 係長、同部産業観光課商工係主事、コンサルタント会社 ((株) 地域計画建築研究所)
議 題	1 開会 (1) 会議資料の確認 2 報告事項 (1) 第2回武蔵村山市産業振興ビジョン策定懇談会会議録について 3 議題 (1) 武蔵村山市産業振興ビジョン素案について (2) その他 4 閉会
結 論 (決定した方針、残 された問題点、保 留事項等を記載す る。)	武蔵村山市産業振興ビジョン素案について、意見交換がなされた。 本日の意見や提案を踏まえて、事務局で素案を修正・加筆を検討す る。
審 議 経 過 (主な意見等を原則 として発言順に記 載し、同一内容は 一つにまとめる。) (発信者) ◎印=座長 ○印=委員 ●印=事務局	1 開会 (1) 会議資料の確認 2 報告事項 (1) 第2回武蔵村山市産業振興ビジョン策定懇談会会議録について 事務局より資料1に沿って説明。 (質疑) ● 修正箇所があれば1週間程度内でご連絡いただきたい。 3 議題 (1) 武蔵村山市産業振興ビジョン素案について 事務局より資料2に沿って第1章～第2章を説明。 (質疑) ◎ 第1章は、上位計画の第五次長期総合計画に基づいて産業振興 ビジョンがあることを位置付けている。今後10年の計画期間で は、社会情勢に合わせながら計画の見直しを行っていく。 第2章は、武蔵村山市の産業の現状と課題である。事業所数は 下げ止まりつつあるが、減少傾向が続いている。日産自動車村 山工場の撤退の影響も少なくない。ただし、減少傾向は本市だ けでなく多摩地域全体でもみられる。 製造業が本市の経済規模を支える産業という説明があった。今 後、企業誘致を図っていくことが必要だが、情報発信が弱いこ とが課題である。商業は大規模商業施設がある。市内の商業事 業者に大きな変化はなく、事業所数は若干持ち直してきてい る。農業については都内・全国と比較して落ち込みは大きくない。 日本全体の農業が減少傾向にあることは否めない。武蔵村 山市では特徴ある製品の東京狭山茶や野菜が生産されている。

	<p>ブランド化も必要との指摘があった。ここでも情報発信が弱いことが課題となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 29頁の農産物作付面積に「栗」が入っているが、生産量も他の農産物と比べて多いのか。 ● 生産量の多寡は分からないが作付面積は大きい。 ○ 作付面積なので市場に出ている訳ではないのか。 ○ 直売場に何件か出ているが、栗は販売時期が限られる。 ○ 観光に使えるとよいと思ったので質問した。 <p>情報発信力について、奥多摩に観光に行った人が帰りに武蔵村山で立ち止まってくれない。看板など、立ち寄ってもらうための工夫が必要ではないか。かたくりの湯の行き方も分かりづらい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 農業において一番の課題は高齢化である。今後10年で農業人口が減少するのではないか。事業規模を大きくしたい農業者に向けて農地の集約化などに取り組んでいる。 ○ 道の駅はあったほうがいい。かたくりの湯は魅力的な施設である。周辺にバンガローなど家族で宿泊できる施設があればよい。 ○ 観光については温泉だけなので、オートキャンプ場などの施設を誘致し、市が管理することは困難なので民活でやればよい。東京から近く、足を伸ばせば西武園ゆうえんちや多摩湖に行ける。温泉は武蔵村山市にしかない強みがある。 ◎ 観光工場として子供たちの教育の場などに利用するような取組はしていないのか。 ○ 工場見学は取組みたいが、食品管理が厳しく実施は難しい。20～30年前は小学生の工場見学を実施していたが、現在はできなくなった。工場見学をする場合、見学者の専用通路が必要のため、大規模な設備投資が必要である。売店には遠方からも来てもらえている。 ● 設備投資への助成金は難しい。 ○ 観光資源としてその場でしか食べられないものがあると観光客が来る。 ○ 商業について、グラフを見ると事業所数は大きく変わってないが中身が変わってきている。自営業者は半分程が減少している。大型商業施設やコンビニが増えて村山らしさがなくなってきている。市の文化を守れるように補助金や助成金など、何らかの対策が必要である。 <p>モノレール延伸後、高架で日陰となる場所ができ、まちの雰囲気が変わらないか心配である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 商業の中身が変わったことを文章に入れられるか。データ的には総数は変わらないように見えるが、中身の変化を認識できるとよい。 ○ 生産緑地の指定が解除されると「栗」の作付面積も減るだろう。机上の話にならないように。 ● 商業については業種を細分化したデータを示すことを検討する。 ○ 金融機関には、製造業者から事業を続けたいが土地がないといった相談がある。工業の課題として企業誘致の推進を挙げているが、矛盾しているのではないか。工業地域に関して記述した方がよいのではないか。 ◎ モノレールの開通に合わせて、都市計画の中で何かできないか。新規に用地を整備するのではなく、工場を閉鎖したいところに誘導することも考えられる。そのためには、不動産情報の
--	---

発信が重要になる。

- 以前、企業の撤退地に墓地が来るという話があり、反対運動が起こった。一定規模の土地が空くと集合住宅が建設される可能性もあり、その場合は住工混在が問題となっていく。土地がないことと工業地域の撤退地の活用が課題である。土地が空いた時に、工業用地として継続活用してもらうための仕掛けや仕組みを作っておかなければならない。
- ◎ 多摩地域は住宅や物流での用地ニーズが高い。その中、工業地域の維持に向けて自治体としても役割を担う必要がある。以前、多摩地域の大手製造業の用地活用の相談に乗ったことがあったが、結果的にはマンションと大型商業施設になった。その結果、周辺の交通や学校建設などの課題を自治体が抱え込むことになった。将来、モノレール延伸に伴い住宅ニーズはさらに高まるだろう。工業地域の維持に向けて情報発信に関する工夫ができるとうい。

事務局より資料2に沿って第3章～第4章を説明。

(質疑)

- ◎ 第2章の課題から第3章で方向性を打ち出した。産業振興の基本方針として地域産業力の強化をどう図るのか考えていかなければならない。情報発信・PRを強化していく必要がある。また、成果指標をしっかり掲げていることはよいことだと思われる。
東京都中小企業振興公社では多摩地域の創業支援についてどのくらいの規模で行っているのか。
- 多摩地域は立川に拠点(TOKYO創業ステーション)がある。
- ◎ 支援策に関して、企業からはどのような要望が出ているのか。
- コロナ禍において本業の維持が重要となっている。ビジネスマッチング・販路開拓のニーズが高い。産業振興ビジョンでもビジネスマッチングと販路開拓のニーズが高いと書いてあるが、支援策を充実させる予定はあるのか。
また、これからは環境対応が求められる。環境に関する相談を受けられる体制はあるのか。また、単独でできることは限られているので外部リソースを活用することも重要である。外部連携に対する方向性を確認させていただきたい。
- ◎ 外部連携は重要である。市の考え方をお聞きしたい。
- 市単独で支援が完結するのであれば、それは一つの方向性ではあるが、外部との連携が事業者を盛り立てることになる。
- 産業振興ビジョンにおけるビジネスマッチングの主な取組は48頁に記載している。現状ではこれ以上の記載が難しい。販路開拓に関しては市内産品のPRサイトを構築し、EC販売などの支援を考えている。
環境対応についての主な取組は、事業者向けの勉強会などを開催する。全体施策「事業基盤の強化」の「4. 中小企業のDX化推進」の項目に該当するが、表示できていない部分はある。
外部リソースの活用については取り組んでいく。そのため、主な取組の欄に所管課・実施機関を記載しており、各機関との連携を図る。
- ◎ 47頁～「交流・連携」で読み取ることもできる。
- ビジネスマッチングは東京都の取組と連携していければと思う。
- ◎ 目標値を定めるのは、後々大変にならないか。
- 目標を掲げて取り組んでいく考えである。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 64頁の指標2について、かたくりの湯の入場者数の目標値250,000人／年（令和13年度）は物理的に無理なのではないか。常時70～80人の入場者数がないと達成しない。 ● 開設当時の入場者数が300,000人、一昨年は150,000人だった。 ○ 満員になると利用者の居心地が悪くなる。 ● 市街化調整区域のため建物を拡大できない。 ○ 容積率を上げてはどうか。 ● 調整区域から外す必要がある。その場合、農林水産省も含めて多くの調整が必要になる。 ◎ かたくりの湯がどこにあるのか分からないといった話があった。うまく誘導することを考えなければならない。 ○ 知っている人は知っているが、通りがかりの人には分かりづらい。 ◎ そのようなシグナルを出して観光振興につなげる。 ○ プールももっていない。ロッカールームが狭く、施設の充実も必要である。他の温泉施設は設備がよいのでそちらに行ってしまう。 ● 民営の温泉施設ができていたので、かたくりの湯の入場者数は当初より半減した。修繕費用が建設費用を越えていくのではないかと思われる。支出超過の状態を考えると、今後も施設を経営維持していくのか、他の施設を検討するのか、考える時期に来ている。10年後のかたくりの湯の成果指標を計画に乗せることが適切かどうか、検討が必要である。 ○ かたくりの湯周辺の土地活用は賛成である。バンガローを作って人を集めて、その利用者にかたくりの湯を利用してもらうのもよいのではないか。温泉付きキャンプ場などは他にないため差別化できる。 ◎ 高尾山の駅に京王電鉄が温泉施設を作ってにぎわっている。周辺施設との関連を広域的に考えていくことは重要である。 ● 産業振興ビジョンは今後の方向性や指針を示すものである。具体的な成果指標を示す必要があるのか議論がある。一方で、本市で策定している様々な計画において成果指標を記載するものが増えており、行政計画として成果指標の設定は必要かと考えている。 ◎ 成果指標を設定しても目標に向かって努力するということだと思う。 現在の企業誘致条例に商業は含まれていないのか。改正で商業にも広げていくということか。 ● お見込みの通りである。 ◎ そういう意味では、企業誘致の目標値15社は妥当だと思う。 ○ 以前の懇談会で座長から話があった北九州の工業高校の話に興味深く聞いた。武蔵村山市の20年後を考えると、多様な農業の考え方をする人が来ることで活性化すると思う。産業振興ビジョンには関係ないかもしれないが、子ども達に学力を付けて卒業させることが行政の仕事ではないかと思う。 ◎ 次代を担う人材を育成していくことが重要である。しかし、産業振興ビジョンの中で具体的にできることとできないことがある。 ○ 当社が油煙の処理装置を導入する際に、事業者を探して辿り着いたのが大阪の業者だった。しかし、その処理装置の中核技術を持っていたのは武蔵村山市の会社だった。すぐ近くに求める技術があるのに気が付かなかったことがショックだった。ビジネスマッチングに参加したことはないが、できれば地元の企業
--	--

	<p>と取引をしたい。地元企業が持つ様々な技術を情報発信してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 地元企業の技術が見られるような仕組みがあればよいと思う。多摩協会でも情報発信をしているが、詳細な情報提供まではしていない。 ○ 企業の一覧表で見えても流用できるような技術を持つ会社を感じ取ることができない。発信の仕方に問題がある。 ○ 情報発信は重要である。44頁～「情報発信・PR」でKPIの具体的数値を出しているにも関わらず、主な取組がありきたりなことしか書いていない。SNSを活用した情報発信はありきたりだと感じる。他市では、外部有識者の知見を活用して、エンターテイメントを取り入れた情報発信を行っているところもある。工夫が足りない印象である。 ○ かたくりの湯が気になる。再オープンした時に行ったが満員で、それから行ってない。よい施設なのにもったいない。 ○ 全体的に施策が商業、農業も含めて幅広くなっているので、実行するマンパワーが気になる。 ◎ 第4章にもう少し体制について記述してはどうかという意味合いか。 ○ お見込みの通りである。 ○ まちづくり計画とうまく連携して産業振興を図ってほしい。モノレール延伸に伴い企業誘致をした結果、外部事業者ばかりで商業集積が形成されないように願う。地元の人たちへの創業支援がまちの活性化につながるのではないか。 ◎ 商業は変化している。モノレール延伸化の中で商業をどのように活かしていくのか、地元企業を中心に捉えて経済循環させていくことが重要である。 <p>観光の面では、かたくりの湯の周辺地域の活用、施設利用の幅を広げていくことが、目標の達成につながる。</p> <p>情報発信・PRでは地元企業の周知を、農業では地産地消の考え方を盛り込まなければならないと感じた。</p> <p>PRの仕方について、中身、方法論を考えていくべきではないかという意見もあった。</p> <p>実施に向けては自治体だけでなく外部との連携を図っていく必要がある。</p> <p>(結論)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵村山市産業振興ビジョン素案について、意見交換がなされた。本日の意見や提案を踏まえて、事務局で素案を修正・加筆を検討する。 <p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今後のスケジュールを説明。本日の意見を踏まえて素案を修正し、パブリックコメントを12月10日から1月9日まで実施する。産業振興ビジョンは3月に策定予定である。 <p>4 閉会</p>
--	---

会議の公開・ 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"></div>
-----------------	---

傍聴者： _____ 0人

会議録の開示・ 非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等： _____) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等： _____)
------------------	---

庶務担当課	協働推進部 産業観光課(内線：227)
-------	---------------------

(日本工業規格A列4番)